

無 名 会



幹事長 小島 高城郎

1. はじめに

無名会は、弁理士界に存在する会派の一つで、本誌の発行元である日本弁理士クラブを構成する5会派の一つであります。創設されたのは、大正11年（1922年）1月と古く、今年で創立81年になります（昨年80周年記念式典を挙行）。

無名会の方は、耳にタコができる程に耳にしている詞（ことば）「名無きは天地の始めにして、名有るは万物の母なり」（老子の道德経の一節）に名付けの所以がありますが、「無名会」というこの名称に惹かれて入会する方も多いです。名付け親は、無名会創設者である故谷山謙雄先生、故藤田実雄先生、故菊池馨先生、故二代目旦六郎治先生等であったと（私の場合）特に故藤本博光先生から伺いました。ちなみに、無名会には、本会は無論のこと弁理士会への多大なる貢献者である初の女性弁理士故井上清子先生や今尚現役で矍鑠たる活躍をされている大先輩も多いです。そして現在も、いわゆる日弁を中心とする他のムラの先生方のご支援を得て無名会からも有能な人材を日本弁理士会へ送り出さんとしており、下記のイベント等も含めて無名会は、日々躍動的な活動を続けております。

無名会の特徴を簡単に申しますと、キャリア或いは派閥等を意識せず、反骨精神旺盛、自由闊達な雰囲気という中で、公私に亘り日々活動するという会員数約270名の比較的可成りの良いクラブです。

2. 無名会の組織と活動

1) 無名会の最高意思決定機関は、総会ですが、その前或いは間の審議・決議機関として幹事会が存在します。原則的には、その決議事項を各委員会にて執行します。幹事会の構成員は、議長役とし

ての幹事長（1名）、幹事長代行（2名）、副幹事長（若干名）、常任幹事（若干名）、幹事（若干名 - 最も多い）、庶務幹事（2名）、会計幹事（2名）となっており、まず幹事は、過去の無名会委員会の委員長経験者から構成されています。

2) 無名会の活動は、委員会や同好会を通して行っていますので、それらについて簡単に紹介させていただきます。

(イ) 人事委員会

この委員会は、日本弁理士会や日本弁理士クラブの各委員会の委員の推薦、無名会内の委員の推薦等、無名会の人事一般を担当します。また、日本弁理士会の選挙が行われた場合、選挙対策委員会に衣替えし、人事委員長は、選対委員長も兼務することとなります。従いまして、無名会としても極めて重要な委員会となります。

(ロ) 政策委員会

この委員会は、日本弁理士会の諸政策に対して、日本弁理士クラブを通して無名会としての意見を検討する委員会です。即ち、いわゆる日弁政策委員会の諮問事項に対応する検討を行うことを中心的任務とします。その他は、無名会の会務の運営・政策に関することです。従いまして、任務としての責務は重大です。

(ハ) 情報委員会

情報が氾濫し、収集に徹すると忽ち收拾がつかない程に情報の山と化する恐れがある昨今ゆえ、“情報整理委員会”とすべきかもしれませんが、勉強範囲が広がった我等の業務に係る情報を、E-Mail等を利用してタイムリーに配信する委員会です。現在の慣例としては、

前幹事長が委員長担当となっております。

(二) 研修委員会

無名会活動の重要な柱の一つであり、弁理士法改正を受け益々その重要性は高まりつつあります。昨今、日弁5会派内での相互乗り入れや日弁外からのお誘いを受けるなど多少ムラ間の垣根が低くなった印象を受けることもあります。望ましい方向と思います。尚、無名会では、大体1年置きで、海外研修も企画しております。更に、当委員会の下に、特許判例研修会、意匠・商標研修会、外国制度研修会、弁理士の仕事を考える会等の常設研修会を設けております。

(ホ) 会誌委員会

当委員会は、主として無名会誌を発行することを任務とします。数年前までは、年2回発行していましたが、特にインターネットの普及に伴いホームページ (<http://www.mumei.gr.jp>) を活用し、年1回発行となっております。しかし、実際は、H.P.の掲載や更新を特定の担当者のみが行うため、なかなか実務との兼ね合いで困難な問題があるように思います。

(ハ) 企画委員会

当委員会は、日本弁理士会役員定時選挙の結果を受けた当選祝賀会(無名・稲門合同) 弁理士試験合格祝賀会、新年会等の諸企画・実行を行う委員会です。合格者の増加により平成12年度は、試験的に日弁共同で祝賀会を催しましたが、昨年、今年とムラ個別に検討することとなりました。新年会は、無論新年を皆で祝うものですが、本年度叙勲、褒賞を受けられた会員のお祝いをも兼ねて行うものであり、1月に予定しております。

(ト) 福利厚生委員会

当委員会は、会員相互の親睦活動を中心とする委員会ゆえに最も重要な委員会です。中でも

全会員を対象とした国内旅行や海外旅行は、最大のイベントといえましょう。本年度は、温泉に浸かり畳の上で酒を酌み交わしたいとの意見もあり、9月27日(金) 28日(土)に伊香保温泉へ出かけて参りました。

また、この委員会は、任意団体としての同好会を有しており、支援しております。ゴルフ、テニス、ボーリング、卓球、囲碁、将棋、麻雀、釣り、ジャズ、ワイン等の同好会です。特に、ゴルフ同好会では、年2~3度のコンペや合宿等が企画・実行されておりますが、その成果あってか本年5月18日(土)箱根の「仙石ゴルフコース」で行われた「第31回発明の日記念ゴルフ大会」(9クラブ参加)にて団体戦初優勝という栄誉に輝きました。

3. 本年度の無名会

良いお知らせが更に多く出来るように、我々無名会は、活気ある会派を目指しております。また、無名会は、毎年、キャッチフレーズを決め、会員は一致団結しその目標に向かって努力しております。本年度のキャッチフレーズは、「初心と改革」です。「初心」は、「初心忘るべからず」で、上記「無名」の謂れを忘れることなく無名のモットーとし、明るく、楽しく、大らかに毎日を過ごす一方、「改革」は、この変革の激しい世の中にあって、緻密に将来を分析し、会員が己れや皆に有益且つ有意義な企画を立案することを狙っております。

4. おわりに

以上簡単ですが、無名会の紹介をさせて頂きました。一会派ではありますが、日本弁理士クラブを支えとともに日本弁理士会の明日をも担う心づもりで微力ながら取り組みたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願い致します。

以上